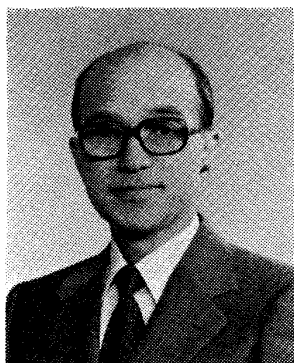


## 随 想



## 65 年 目 の 新 年 を 迎 え て

荒 木 透\*

新年おめでとうございます。

ここに日本鉄鋼協会創立第 65 周年の新春を迎え、まず当協会が我が国の鉄鋼に関する 学術技術の 発展にますます大きな 役割を 果たしつつあることを省み、会員の皆様にお慶びを申し上げます。

今年は世界的にみて一つの新しい時代と目される 1980 年代への導入部にあたり、科学技術、工業技術の面におきましても新しい変化に対応した動きがつつぎと現れてくるように思われます。

資源、エネルギーの有限性についての厳しい認識が基底となり、長期的視野に立つて変革に対応し、かつ経済性を満たしてゆく新しい産業技術の確立が一つの命題となりましょう。

鉄鋼の製造技術ならびにその基礎的研究分野におきましては、今後革新的制御技術が鉄鋼の各生産工程に導入され、また、環境問題の対策や徹底したエネルギー節約・回収技術、原材料、エネルギー源の変換への対応、高性能鋼材、複合材料、高加工度製品の開発……等の方向に新しい進展と変革を経験してゆくことになりましょう。

来るべき時代における当協会の活動に対し課せられている役割は、このような意味においてたいへん重かつ大なるものと存じます。

昨年春秋 2 回の講演大会において行われました研究発表・討論の数は、併せて 1100 件になんとしております。その内容も、鉄鋼技術の学術的基礎を掘り下げた研究から、現場技術の生きた改善研究、最先端の革新技术に関する検討、解析に至るまで、広い領域にまたがっており、活発な討論が繰り広げられました。当協会会員諸兄のまことに活力に満ちた活躍がここに反映されており、今後に対する期待に力強いものが感ぜられます。

本「鉄と鋼」誌ならびに、「Transactions of ISIJ」に投稿されます論文等も近年ますます充実されて参っており、わが国はもちろん海外においても評価高く活用されております。限られた紙面をより多くの投稿者に、より多くのテーマに提供し、また読者の方々にさらに満足していただくために、当協会の機関誌としてその使命の達成に絶えざる努力が必要かと存じます。

以上の他、当協会の鉄鋼技術に関する活動は現在非常に広い範囲に渡っております。

鉄鋼協会共同研究会においては、18 の専門分野に別れて、各企業の技術部門が直接関与する技術研究の交流・協力活動が輝かしい実績を重ねて参っております。その他基礎から応用にわたる各種の研究に関する委員会、討論会、講座、セミナー等が多彩に繰りひろげられております。とくに本年は当会主催による圧延に関する国際会議（9 月）が東京において開催され、国際的に高いレベルの技術情報の交換が期待されますが、同時に国際的な相互理解と親善のよき機会が提供されることと存じます。

当協会の標準化活動は、JIS 鉄鋼関連規格の原案や協会規格案の作成等に大きな寄与をして参りましたが、さらに近年重要性を増して参りました国際規格 ISO への関与が活発となり、本年よりは、ISO/TC17（鉄鋼材料規格委員会）の正式活動が開始されます。今後この方面に対するわが国の影響力は高

\* 本会会長、科学技術庁金属材料技術研究所所長

い技術レベルを背景としてますますその比重を増してゆくものと存ぜられます。先年開設されました鉄鋼技術情報センターの技術情報サービス活動に加えて、前記 TC17 の事務局はすでに当協会内に開設され、本会の多角的な業務活動をさらに活発なものとして参ることと存じます。

終わりに、鉄鋼の使用技術に関連した分野についての活動の今後の発展について若干述べさせていただきます。

鉄鋼材料は各種の機器、構造物の部材として用いられますが、そのすぐれた強度、靱性と加工性等の特性を発揮して広い分野に大量に使用されており、その経済性と性能の向上の面でわが国の鉄鋼技術の発展の果たした役割と今後への期待は大きいものがあります。技術革新の線に沿って、今後材料の性能はさらに向上しましょうが、同時に、用途からくる要求もますます厳しくなりましょう。高速化、高圧力化、環境の厳化などの使用条件からくる要求から、高い安全性、信頼性を保証するために、鋼材には極めて厳しい高い品質、性能を必要とすることとなります。

従来、先進諸国よりの技術導入に多くを頼って参りました材料の使用設計に当たつての技術基準、材料の使用基準などの面におきましては、鉄鋼協会がカバーする領域と鉄鋼の使用設計側の学協会、技術団体の領域との間に密接な相互協力が必要と存ぜられます。この意味において、当協会が事務局に当たっております、日本圧力容器研究会議 (JPVRC) の活動は国内的にも国際的にも望ましい将来を背負つたものと存じます。

新しい年の展望は、エネルギー問題、財政再建問題などの政治的国際的に困難な状況から必ずしも明るい面が多いとは申せませんが、鉄鋼の科学技術の総合的な前進を着実に進めることが経済環境、国際環境の改善への寄与をもたらすことは疑いのないところであります。

会員各位の一層の御発展と御精進を願い、当協会の活動の質的量的な向上を祈念いたしまして新年のごあいさついたします。